

巻頭言

Occupy とは

第27回日本作業療法教育学術大会 大会長

藍野大学医療保健学部作業療法学科 鈴木 孝治

教員という職業に従事していれば、「作業療法」という言葉を高校生にわかりやすく説明する仕事は必須である。しかし、この説明はかなり難しい。10年以上悩んでいたが、ここ数年は、日本語からの説明はやめて、英語の Occupy から説明している。occupational therapy < occupation < occupy で、形容詞の段階で日本語訳にしてしまうと、どうしても「職業的、職業の」などになってしまう。名詞の段階では、「占有、占拠」などの日本語が出てくる。動詞の occupy では、「(時間的・空間的に) 占有する、占拠する」となり、あまり良くない例えであるが、現在のウクライナの領土を例に説明できる。

高校生には、新幹線や国際線の航空機のトイレを例に、日本語の「使用中」を英語ではどのように表記されているかと質問する。正答できる高校生は皆無かごく少数で、ほとんど気にしていないようである。正解の occupied から occupation < occupational therapy と説明するのであるが、「トイレ」がポイントである。誰でも排泄の際は、入浴の場面以上に「時間・空間」を「独り占めする」のであり、認知症の方でさえ「羞恥心」などの心理的側面が深く関与する。まさに、精神・心理的な側面の治療という作業療法のルーツも説明できる。そして、「時間・空間の独り占め」が、「集中力」の向上につながることは、受験勉強をしている高校生にとって身近でわかりやすい。ここから、注意機能・記憶機能をはじめとした高次脳機能（障害）を扱う職業であることの説明がしやすくなる。ここまで来れば、「脳・こころ」を扱う職業で、「脳・こころの障害」が原因で生活上の困難をきたしている対象者へアプローチする専門職であることを理解させられる。あとは、具体的な各領域の取り組み場面の写真を見せたり、理学療法や言語聴覚療法との違いを説明すれば、より「作業療法」の特徴をクローズアップさせられると思う。

ここで、話題を変えてしまうが、「理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則および指導ガイドライン」が、1999年に、高等教育全般の大幅な改革の動きを受けて、社会的ニーズの多様化に対応した教育内容の区別別大綱化がなされた。それ以降の20年間、作業療法教育の面で、いくつかの問題が指摘されてきた。それらは、学生の一般常識・コミュニケーション能力の不足、不十分な実習時間、実習指導者の資質の低下、現実の作業療法実践に即した教授内容が伴っていないこと、総合教育科目および地域作業療法学を中心とした教授内容が不十分、世界作業療法士連盟の基準より専門科目の比重が低いこと、作業を中心とした科学性の教授が不足していること、などである。これらの問題を解決すべく、2018年に、ご存知の指定規則・指導ガイドラインの改正がなされた。

自身の反省も含めて、この20年間、教員や（一社）日本作業療法士協会が、作業療法教育に関して十分に occupy してきたのであろうか？もちろん、さまざまな改革・改変はなされてはきた。しかし、今こそ、指定規則・指導ガイドラインの改正のように、パラダイムシフトが必要と考える。「教育=教え育てる」とは、「他から意図を持って働きかけ、望ましい姿に変化させ、価値を実現する活動」と辞書的に定義されている。occupy を教育する人々の集まりの一つは、日本作業療法教育学会である。

第27回の学術大会で、「ICTを活用した卒前卒後の一貫した教育体制」をコンセプトに据えた作業療法教育のパラダイムシフトを目指し、皆で occupy しましょう！